

大阪PCB廃棄物処理事業の操業状況について

1. 操業状況

平成 18 年 10 月から平成 22 年 9 月末の PCB 廃棄物搬入実績は、トランス類が 1,241 台、コンデンサ類が 21,045 台、廃 PCB 等が 266 本となっています。（表—1）

これは近畿 2 府 4 県で登録されている PCB 廃棄物のうち、トランス類では約 37.2%、コンデンサ類では約 32.7%、廃 PCB 等では約 20.0%を搬入したことになります。

また、大阪市内の PCB 廃棄物搬入実績は、トランス類が 801 台、コンデンサ類が 10,104 台、廃 PCB 等が 200 本となっており、登録されている PCB 廃棄物のうち、トランス類では約 62.6%、コンデンサ類では約 85.3%、廃 PCB 等では約 61.2%を搬入したことになります。

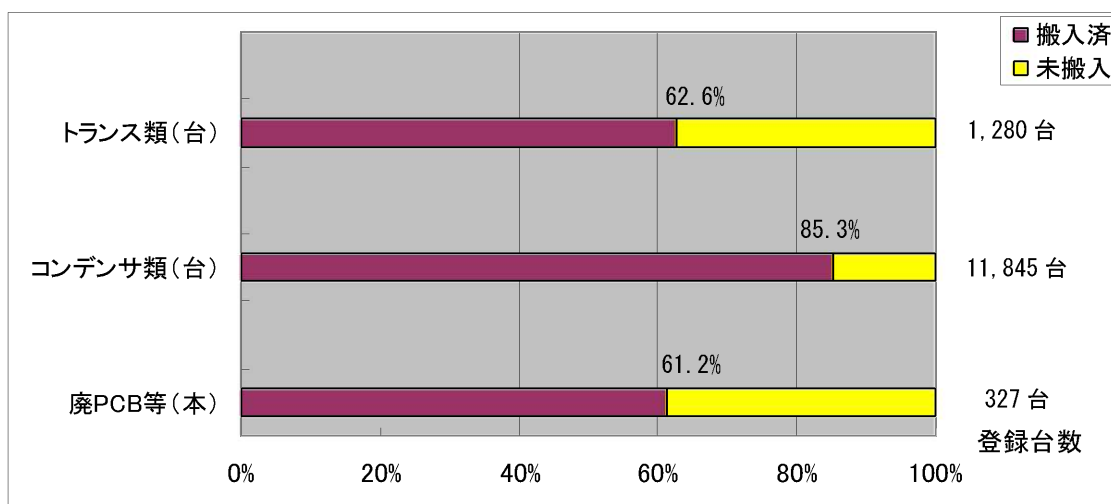
（2 府 4 県内及び大阪市内の早期登録等台数をベースに算出）

1) 搬入実績（平成 18 年 10 月 3 日～平成 22 年 9 月末）

表—1

		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度							計
						4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	
点検期間 (上:西棟、下:東棟)													
トランス類 (台)	2 府 4 県	68	332	312	380	32	18	46	26	0	27	149	1,241
	大阪市	68	332	257	116	5	4	2	7	0	10	28	801
コンデンサ類 (台)	2 府 4 県	2,096	4,575	5,408	6,408	318	702	809	357	0	372	2,558	21,045
	大阪市	2,096	4,575	2,664	458	30	102	108	63	0	8	311	10,104
*廃 PCB 等 (本)	2 府 4 県	20	69	93	81	2	1	0	0	0	0	3	266
	大阪市	20	69	82	28	0	1	0	0	0	0	1	200
保管容器 (台)	2 府 4 県	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	1
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

*：廃 PCB 等は、ドラム缶本数。



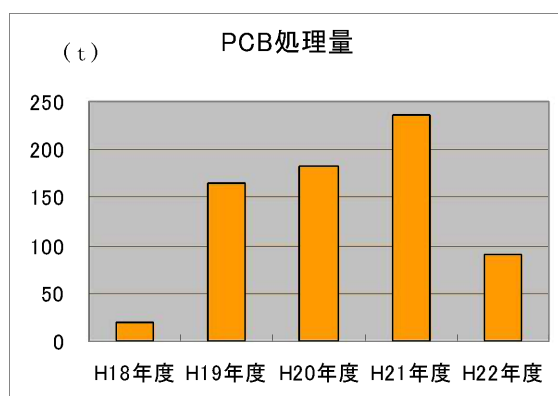
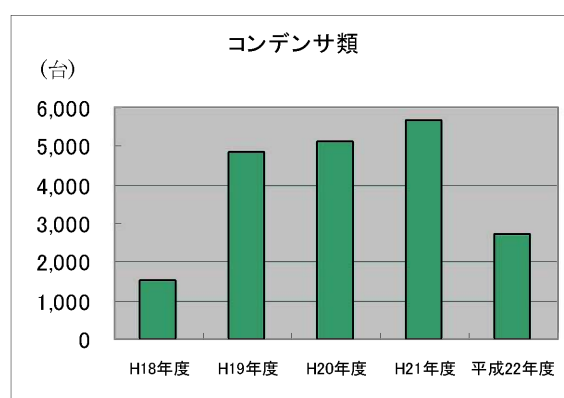
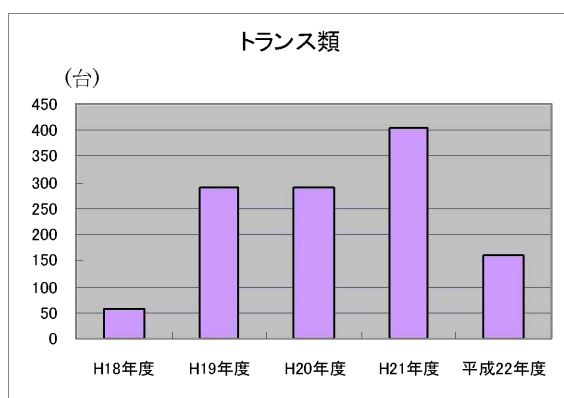
図—1 大阪市内からの搬入実績

2) 中間処理完了実績 (D票ベース) (平成 18 年 10 月 3 日～平成 22 年 9 月末)

表－2

	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度							計
					4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	
点検期間 (上:西棟、下:東棟)												
トランス類(台)	56	290	289	404	14	27	45	31	41	0	158	1,197
コンデンサ類(台)	1,513	4,862	5,136	5,692	664	533	524	731	277	0	2,729	19,932
*廃 PCB 等(本)	20	53	87	85	18	0	2	0	1	0	21	266
保管容器(台)	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1	1
**PCB 処理量(t)	19.7	165.7	181.9	236.5	24.5	19.8	16.0	15.0	15.5	0	91.0	695.0

* : 廃 PCB 等は、ドラム缶本数。 ** : PCB 処理量は、100%換算した量。



注) 平成 18 年度は、10 月 3 日以降の実績データ
平成 22 年度は、9 月末までの実績データ

図－2 中間処理完了実績グラフ

3) 払出実績 (平成 18 年 10 月 3 日～平成 22 年 9 月末)

(1) 有価物・廃棄物

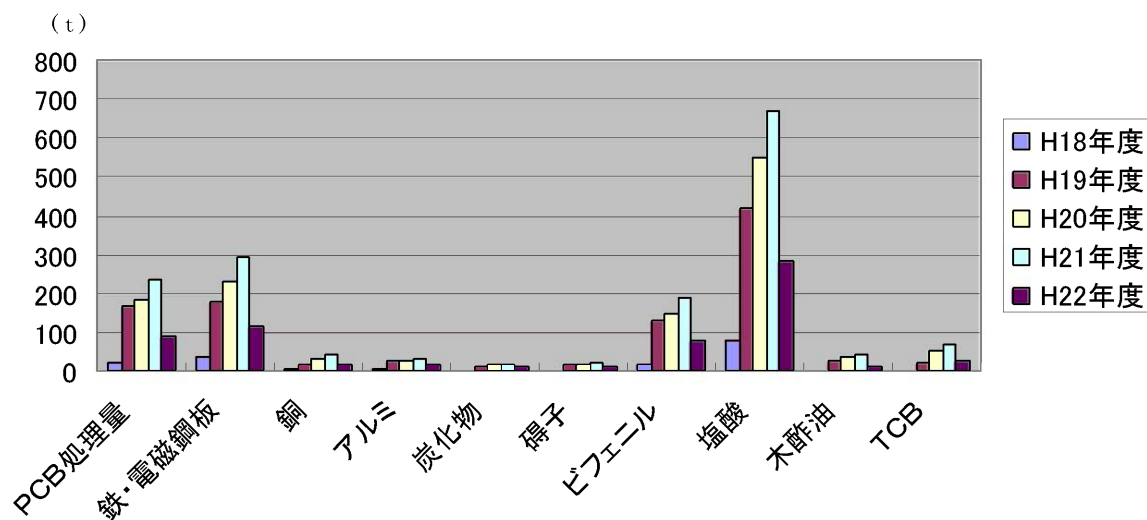
表—3

(単位: t)

		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22年度							計
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	
点検期間 (上:西棟、下:東棟)													
有 価 物	鉄・電磁鋼板 (t)	38.7	179.2	230.0	293.0	31.0	22.3	19.6	26.3	15.0	0.0	114.2	855.1
	銅 (t)	3.8	16.6	29.9	40.3	0.0	4.5	5.7	3.5	3.3	0.0	17.0	107.6
	アルミ (t)	4.8	25.8	24.0	32.3	2.0	1.7	4.4	3.0	5.8	0.0	16.9	103.8
廃 棄 物	炭化物 (t)	1.3	10.7	14.6	13.7	4.6	0.0	0.0	2.6	2.1	0.0	9.3	49.6
	碍子 (t)	2.5	15.6	17.7	20.0	3.2	0.0	0.0	3.3	2.3	0.0	8.8	64.6
	ビフェニル (t)	15.0	132.5	146.6	190.4	19.1	19.0	9.5	9.5	19.0	0.0	76.1	560.6
	塩酸 (t)	79.1	419.0	549.9	671.3	79.9	82.2	41.2	39.4	39.5	0.0	282.2	2,001.5
	木酢油 (t)	0.0	27.6	36.2	42.6	4.4	3.7	0.0	4.1	0.0	0.0	12.2	118.6
	TCB (t)	0.0	20.4	49.9	66.3	8.9	8.6	0.0	0.0	8.1	0.0	25.6	162.2

注: 有価物及び廃棄物の各数値は、払出年月でとりまとめ。

各数値につき小数点以下第 2 位で四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。



注) 平成 18 年度は、10 月 3 日以降の実績データ

平成 22 年度は、9 月末までの実績データ

図—3 有価物・廃棄物の払出実績グラフ

(2) 廃棄物の再資源化方法

表—4

廃棄物	再資源化方法
炭化物	銅精錬原料等として利用
碍子	再生砕石等として利用
ビフェニル	他の廃油等と混合の後セメントメーカーで燃料として利用
	他の廃油等と混合の後助燃油として利用
塩酸	飛灰、スラッジ、汚染土壌の金属抽出剤として利用
	汚泥処理（中和）剤として利用
木酢油	高炉用ペレット製造又はセメント原料製造工程の原燃料
T C B	高炉用ペレット製造又はセメント原料製造工程の原燃料

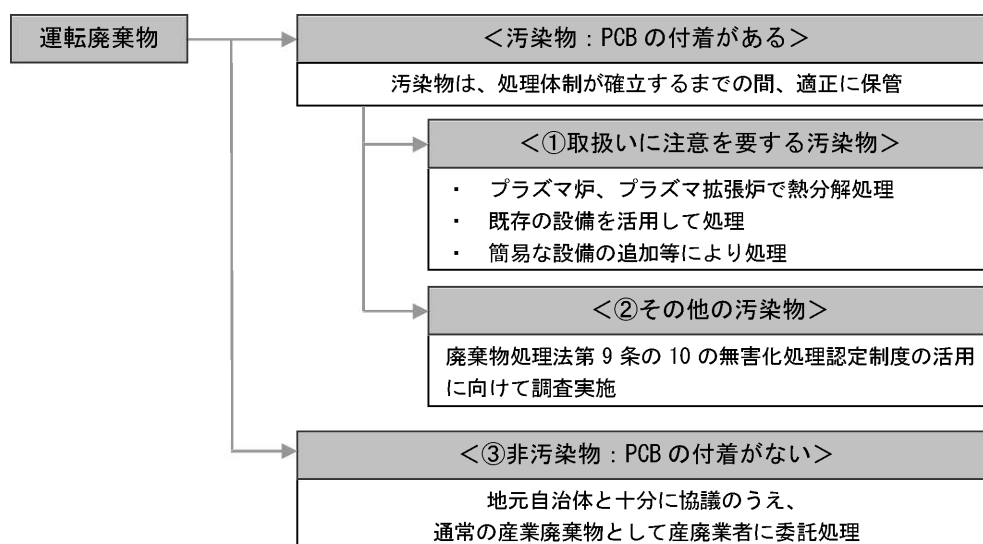
(3) 運転廃棄物

操業に伴い発生する運転廃棄物は、保護具・シート類、活性炭、タール・木酢、廃アルカリ等の種類毎にドラム缶に封入し、現在、施設内に約 3,000 本保管しています。

大阪事業所では、環境省が産業廃棄物焼却施設の協力を得て実施している微量の PCB を含む廃棄物の焼却実証試験に対して、平成 21 年度には試料（20 ㍲医療廃棄物用のプラスチックケース 80 ケース、約 740kg）を、また、今年度も同試験に対する試料（40 ㍲医療廃棄物用のプラスチックケース 440 ケース、約 8t）の提供を予定しています。

この他、北九州事業所にて実施されている濃縮廃アルカリ水の真空加熱分離処理のノウハウを取り入れ、大阪事業所でも処理すると共に、保管施設としては、昨年 10 月に完成した屋外倉庫（約 700 本）に引き続き、西棟、東棟内の工作室をドラム缶倉庫（各 200 本程度）として使用するため改修工事を行っています。

上記の取組を進めていますが、ドラム缶として年間 600 本程度の運転廃棄物が発生することから、処理体制が確立されるまでの間、外部の倉庫を借りて保管することも検討を始めたところです。



- ① 管理区域内の清掃廃棄物、PCB 原液を拭き取ったウエスなど高濃度の PCB の付着が確認されたものは、プラズマ炉、V T R など自社内の PCB 廃棄物処理設備で処理。
- ② 環境省における微量 PCB 混入廃電気機器等の処理に係る実証試験及び方策の検討を踏まえ、運転廃棄物のうち、PCB の付着量がこれまでの実証試験と同程度のものは、今後実証試験を実施したうえで、無害化処理認定の対象となるよう環境省に働きかけを行う。

（※平成 21 年 3 月 31 日開催 P C B 廃棄物処理事業検討委員会 資料 2 添付資料 6 より一部抜粋）

図—4 運転廃棄物の処理方針

4) 視察・見学状況

平成 18 年 10 月に見学受入を開始して以来、平成 22 年 9 月末現在で延べ 988 団体、7,412 人の方が情報公開設備を視察・見学されました。視察・見学者の内訳は、地元市民をはじめ企業関係（PCB 廃棄物保管事業者を含む）、環境団体・協会、行政関係の方が見学されました。

表—5 視察・見学者数 (名)

年月	総数	企業 関係	環境・ 協会	一般 関係	行政 関係	学校・ 研修	自由 見学	海外	委員会
平成 18 年度 計	2,129	793	767	113	282	62	55	34	23
平成 19 年度 計	3,333	1,511	996	527	148	44	40	45	22
平成 20 年度 計	1,100	316	430	13	168	52	91	30	0
平成 21 年度 計	650	237	170	19	79	64	51	17	13
平成 22 年 4 月	56	4	—	4	—	48	—	—	—
5 月	34	16	—	—	3	6	3	—	6
6 月	44	24	—	—	6	14	—	—	—
7 月	26	16	3	—	6	—	1	—	—
8 月	17	7	—	—	—	9	1	—	—
9 月	23	16	—	—	—	—	3	—	4
平成 22 年度 計	200	83	3	4	15	77	8	—	10
合 計	7,412	2,940	2,366	676	692	299	245	126	68

5) 保管事業者説明会の開催

PCB 廃棄物の円滑な処理を進めるため、平成 21 年 11 月からは近畿 2 府 4 県の保管事業者に対して、2 巡目の説明会を開催しています。本年 10 月及び 11 月に京都市内での説明会 3 回を実施し、2 巡目の説明会が終了し、3 巡目の説明実施に向けて準備をしております。

今後も受入にあたり保管事業者の方への説明会を開催するなど、PCB 廃棄物の早期処理完了に向けて取り組みます。

表—6 近畿 2 府 4 県（大阪市を除く）保管事業者説明会の実施状況

	年 月 日	説 明 会 名 称		出席者数
1 巡 目	平成 20 年 7 月 ～平成 21 年 11 月	2 府 4 県	3 3 回（内 5 件は戸別訪問）	917 事業者
2 巡 目	平成 21 年 11 月～平成 22 年 1 月	大阪府	6 回	157 事業者
	平成 22 年 2 月～6 月	兵庫県	1 2 回、2 事業者は戸別訪問実施	303 事業者
	6 月、7 月	滋賀県	2 回	50 事業者
	8 月、9 月	奈良県	2 回	47 事業所
	平成 22 年 7 月、9 月	京都府	3 回、2 事業者は個別訪問 (10 月及び 11 月に計 3 回を予定)	16 事業所

※ 和歌山県について、2 巡目の説明会は実施しない。

6) 収集運搬について

大阪事業への入門許可を取得している収集運搬事業者は、平成 22 年 10 月 8 日時点で 24 事業者となっています。前回の事業監視委員会以降、2 事業者が増えました。

平成 22 年 6 月に環境省から「PCB 廃棄物収集・運搬ガイドライン」の改訂版が発行されたことから、JESCO においても各事業所の受入基準の見直しを進めており、漏洩物の収集・運搬のための基準等について今後収集運搬事業者に説明することとしています。

なお、PCB 廃棄物の搬入には必ず JESCO 社員が立会い、処理物の確認を行っています。また、収集運搬事業者が初めて搬入する場合には、JESCO 社員が積み込み時にも立会い、PCB 廃棄物の取扱いの指導を行い、収集運搬の安全性の向上に努めることも実行しています。

7) 緊急時対応訓練実施状況

平成 22 年度は訓練テーマを「火災時の対応」として各班、グループ毎に事象を設定して取り組んでいます。その他、5 月には例年実施している自衛消防訓練を此花消防署のご協力を得て実施しました。今後も毎月 1 回の実施を予定しています。

表—7 緊急時対応訓練の実績

月 日	訓 練 項 目
平成 22 年 4 月 15 日	緊急時対応訓練（小規模火災発生時の連絡、処置訓練 VTR 班）
5 月 20 日	自衛消防訓練（避難、消火、通報訓練）〔此花消防署立会、指導〕
6 月 17 日	緊急時対応訓練（小規模火災 解体-1 班）
7 月 15 日	同 上 （小規模火災 解体-2 班）
8 月 25 日	同 上 （小規模火災 液処理班）
10 月 5 日	同 上 （小規模火災 分析班）
10 月 21 日	同 上 （小規模火災 保全班）

8) 安全教育実施状況

安全教育は、保護具メーカーを招いて保護具の取扱いについて等、安全衛生に関する内容、7 月の洗浄液漏洩事故発生後は、此花消防署長を招いての安全管理や緊急時の対応等について実施しました。

表—8 安全教育の実績

月 日	教 育 内 容
平成 22 年 4 月 8 日	保護具の取扱い
5 月 27 日	ISO 研修
6 月 8 日	熱中症について〔講師：産業医〕
7 月 22 日	普通救命講習（AED 操作他）〔此花消防署による指導〕
8 月 12 日	危険物災害から学ぶ安全管理〔講師：此花消防署長〕
8 月 19 日	火災・地震発生時の対処教育
9 月 27 日	プラント事故事例に学ぶ
10 月 14 日	火災発生時の対応、ドラム缶管理

9) ヒヤリハット・キガカリの取り組み状況

平成 22 年度のヒヤリハット・キガカリ活動は、偶数月を強化月間として取り組みました。また、日々の作業日報にもヒヤリハット・キガカリを記入する欄を追加し、提案しやすくなるよう様式を変更しています。

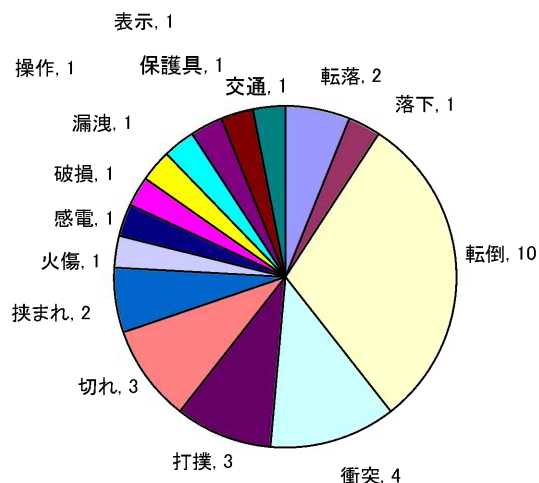
表－9 平成 22 年度ヒヤリハット・キガカリの報告件数

	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22年度							合計
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	
ヒヤリハット	78	162	21	66	21	4	4	3	1	0	33	360
キガカリ	41	357	168	293	23	29	18	2	2	1	75	934

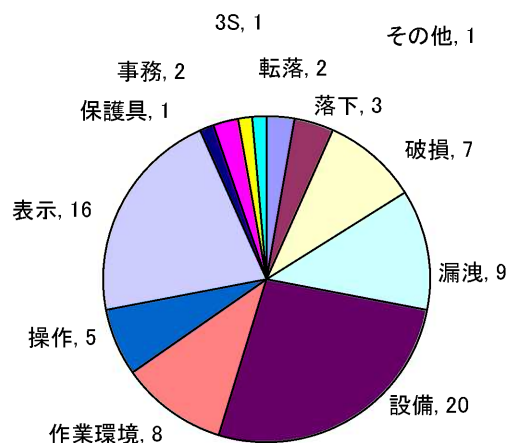
※H18年度は、試運転時(4月～9月)の実績も含む。
H22年度は、9月末までの実績データ。

型の分類

	ヒヤリハット	キガカリ
転落	2	2
転倒	10	0
衝突	4	0
落下	1	3
打撲	3	0
切れ	3	0
挟まれ	2	0
火傷	1	0
被液	0	0
感電	1	0
破損	1	7
火災	0	0
漏洩	1	9
設備	0	20
作業環境	0	8
操作	1	5
表示	1	16
3S	0	1
保護具	1	1
腰痛	0	0
報連相	0	0
事務	0	2
生活	0	0
交通	1	0
その他	0	1
合計	33	75



図—5 ヒヤリハットの型別グラフ



図—6 キガカリの型別グラフ